

平成27年度第2回南島原市総合教育会議会議録

1 日 時 平成27年11月4日(水) 16時00分～17時30分

1 場 所 南有馬庁舎 2階会議室

1 出席者の氏名 教育委員長 坂上三徳
教育委員 岩永里美
教育委員 塩田絹代
教育委員 近藤孝信
教育長 永田良二
南島原市長 松本政博

1 構成員以外の出席者の氏名

南島原市副市長	山口周一
教育次長	渡部博
教育総務課長	山崎康徳
学校教育課長	湯治康信
生涯学習課生涯学習課長	林田充敏
スポーツ振興課長	泉淳一郎
文化財課長	松本慎二
教育総務課総務班長	荒木一弘

1 テーマ

(1) 来年度予算について

- ・ALT(外国語指導助手)の増員・充実について
- ・その他

(2) 学校施設の整備・充実について

(3) 小・中一貫教育の取り組みについて

(4) 子育て・家庭教育支援について

(5) 来年度の総合教育会議について

(6) その他

松本市長
(開会挨拶)

皆様、こんにちは。
本日は、第2回南島原市総合教育会議のご案内をいたしましたところ、大変お忙しい中にご出席をいただき、誠にありがとうございます。
また、坂上委員長をはじめ、教育委員の皆様には、日頃から南島原市の教育の振興並びに発展のため、多大なるご尽力をいただいていることに対して、厚くお礼を申し上げます。
前回の第1回総合教育会議では、会議規則並びに教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定について協議いただきましたが、今回の会議から委員皆様のご意見を伺いながら、教育振興のための施策につなげていきたいと考え、具体的なテーマを設定させていただきました。
まず、来年度の予算編成に反映するため、「来年度予算について」及び「学校施設の整備充実について」お伺いし、さらに全国的に注目されております「小中一貫教育への取り組み」や「子育て・家庭教育支援事業など」について、忌憚のないご意見を賜り、私が、まちづくりの基本理念としております「住み続けたいまち」、「住んでみたいまち」づくり実現のためにつなげたいと考えております。
今後も、「総合教育会議」を通じて、より一層、教育委員の皆様方と連携を深め、南島原市の教育のさらなる充実に向け、ともに一層努力して参りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
はなはだ、簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。

松本市長

それでは、第2回「南島原市総合教育会議」をはじめます。
テーマ第1「来年度予算について」を協議いたします。
まず、「ALT(外国語指導助手)の増員・充実について」資料は、1～2ページでございます。
まず、本市のALTの現状について説明をお願いします。

学校教育課長

(別紙資料により、ALTの概要について説明)

松本市長

この件について、委員の皆様のご発言をお願いします。

坂上委員長

現在、小学校の統廃合が進んでいる中で、それぞれの学校では、学校ごとに特色ある教育を目指して、校長を中心に取り組んでいるところであります。
合併して10年が過ぎ、小学校の統廃合が進んでいく中、市としても特色ある教育を考えていった方が良いのではないかと思います。
本市では人間教育に重きを置き、研究指定も増えているところです。
このような中で、ALTについては、現在6名配置ですが、この配置を見れば、小学校への派遣指導が月1回と2回の学校があります。
さらに統廃合が進めば、月2回の学校が増えていくと思いますが、これからのグローバル化が叫ばれている中で、英語教育の重要性が増していると思いますので、経費がかかるかと思いますが、将来を担う子どもたちのことを考えれば、ALTの増員をしていただければと思います。

松本市長

私自身もALTの充実については、大変重要なことと考えております。

近藤委員

小学校の英語教育の充実等、さらなる活用等、学校からの要望があれば、増員も考えられると思います。
さらに、北有馬幼稚園への定期派遣は、大変良かったと思います。

それから、ALTの指導にも携わったことがあるのですが、質の問題もあります。

生活習慣の違いで、机に座るようなALTもいましたので、この点は、管理職がある程度指導をする必要があると思います。

塩田委員 各学校を訪問させていただいて感じたことですが、ALTと子どもたちとのふれあいが、もう少し密に出来ないのかなと思います。

市の大切な財政の中から、ALTの派遣をしていただいているのですから、ALTの質をもっと高めて、最大限に生かせるような、例えば、昼休みにでも英会話で子どもたちと触れあったり、異国の文化、考え方などの国際化を含めた子どもたちとのふれあいをもっと作っていけるような指導体制作りが出来ないかと思います。

岩永委員 ある中学校では、地域の方とも交流があり、深江太鼓など、地域交流も積極的に取り組んでいたALTもいらっしゃいました。

子どもたちとはもちろん、地域での文化活動を通して地元住民の皆さんともふれあい、交流を深め、自然と地域の中で海外の話題が出るようになりました。

このようなALTが増えれば、市内、地域での国際化や英語力も育っていくのではないかと思います。

松本市長 教育委員さんから、ご意見を頂きましたが、教育委員会事務局としては、どのような考えでいるのか説明をお願いします。

永田教育長 今年度、5名のALTが来日し、面接をしました。

とても謙虚で、担当指導主事もとてもいいALTが配置されたと喜んでおりました。

各学校の校長へも聞いてみたら、すばらしい人が配置されたということで、積極的に地域へも出て行っているみたいです。

国際交流員も本市にはおり、テレビにも出て、積極的に地域交流などの様子が流れていますが、彼らALTもこのように積極的に地域に入って活動出来る感じがしました。

それから北有馬中学校では、「イングリッシュコーナー」を設けて活動しているとのことでした。

学校や地域の方が、ALTをどれだけ受け入れるかも大切なことだと思います。

異国に来て、日本語が話せるのは1名のみで、他のALTもぜひ、日本語を覚えたいとのことでした。

このように素直で、積極的なALTが来てくれたので、市内に、6名のALTがいるので、先行して活躍してくれているALTに、あと2名増員、あるいは高校の2名の8名で、例えば、「イングリッシュハウス」など、英語に触れあう機会の充実などを図れればと思います。

また、県では、ハウステンボスで、英語キャンプというものも実施されています。

南島原市でもそのような取り組みなども出来ればと考えており、今後、ALTを積極的に活用していきたいと思っております。

坂上委員長 私が知っているALTは、昼休み時間も、子どもたちと運動場で一緒に遊んでいますし、地域にもよく出て行って、いろいろな活動も行っておりすばらしい青年でした。

地域の方が、積極的にALTに声をかけて、地域の太鼓活動やいろいろ

な行事、体育祭などへ誘えば、ALTも喜んで参加しておりましたので、いろいろな働きかけや仕掛けができれば、もっとALTと地域との交流も増えていくのではないかと思います。

松本市長 そのような所は、学校長のやり方も良かったのではないのでしょうか。
来年度の予算については、どのようになっているのでしょうか。

教育次長 当然、正規のALTの増員も考えないといけません、その他に費用を
安価でやれないか、副市長からも提案をいただいているところであり
ます。

また、教育委員会の中に、ALTとの窓口になる英語を話せる方の配置も必要ではないかのご提案もいただいているところでございますので、平成28年度予算にどれだけ要求できるかは、これからですけれども、先を見越したところで、検討を学校教育課でやっているという報告を受けているところでございます。

松本市長 費用的な点で、もう少し、詳細に説明をお願いします。

教育次長 現在ALTの報酬が、勤務年数に応じ、月28万円から32万5千円と
なっておりますが、英語圏出身者に、嘱託職員として任用できないか、またインターネット回線を使つての外国の方と交流を持てるシステムの導入など、いろいろな案がありますが、まずはALTを2名増やし、学校教育課内に、英語と日本語が出来る嘱託職員を設置し、中学校だけでなく、幼稚園や小学校への派遣をどんどん派遣できるように、総合戦略の中で進められるように検討してくれていると思います。

松本市長 次に、テーマ第2「学校施設の整備・充実について」を協議いたしま
す。
資料は、3ページでございます。
まずは、資料の説明をお願いします。

教育総務課長 (別紙資料により、市内校舎・体育館の建築年度経過年数について説
明)

松本市長 この件について、委員の皆様のご発言をお願いします。

坂上委員長 西有家・布津中学校の体育館の新築について、本当に立派な体育館を建
てていただいて、子どもたちも大変喜んでおり、大変感謝しております。

課長のお話を聞いて、小学校も統合が進んでいきますが、有家小学校が51年経過しておりますが、学校訪問をしていく中で、やはり有家小学校が一番暗いのではないかと思います。

敷地も狭く、統廃合の計画に伴い増築の計画もありますが、何とかならないものか、やはり明るい教室で授業を受けさせたいという気持ちがあります。

近藤委員 今後の改修計画があるのでしょうか。

教育総務課長 改築か長寿命化改修工事を行うか、さらに統廃合、小中一貫教育を見据
え、早い時期に計画を立てるべきとは考えておりますが、今の次点では、
具体的な計画は定まっております。

松本市長 次に、テーマ第3「小・中一貫教育の取り組みについて」を協議いたします。

資料は、4～8ページでございます。

現在、義務教育学校、小中一貫校が全国的に、取り組まれつつありますが、本市が少子化にある状況で、このような取り組みがもたらす効果、本市にとって効果的な制度であると考えれば、前向きに考えたいという思いは持っております。

まずは、制度内容等について、説明をお願いします。

学校教育課長 (別紙資料により、小中一貫校の制度化等について説明)

永田教育長 教育委員会としては、先般、関東方面に1校、長崎市内に1校を実際に視察しており、また、文教委員会では、山口県に視察に行く方向で調整されております。

その中で、一番のメリットというのは、先ほど、英語教育の話もありましたが、小学校に英語教科が導入される予定であり、こういう場合でも、中学校の教師が、実際に小学校に出向き、英語を教えることが出来るということがあります。

先般の視察でも、静岡県沼津市では、校舎の造りが、今までの発想、私たちが想像するようなものでなく、教室より廊下が広がっており、このスペースがコミュニティスペースとなっており、またカリキュラムの提案も自由度が高く、また教える側も自由度が高いものとなっております。

原則としては、中学校の免許を持った教師が小学校を教えるのには、小学校の免許を持たないといけないということがあります。当分の間、例外を認めますとのことであるようです。

さらに、私たち地域の学校では、将来全校、全学年1クラスになる可能性があります。そうすると、全教科の教諭をそろえられない時代もやってくる可能性もあります。

英語教諭が1名しか赴任せず、英語以外の教師が英語を教えないといけない場合も出てくる可能性もあるということです。

そういう場合でも、小中一貫校では、英語教諭を1名でなく、2名に増やし、その分、家庭科の教師などを小学校から、中学校へ派遣する。逆に、この英語教師が、小学校でも教えることもあるということです。

このような例を本件では、五島市の奈留地区で実践されており、この地区では、小中高の学校が連携しており、高校の教師が中学校の授業へ、中学校の教師が小学校の授業へ、高校の教師が小学校の授業へやってくるということでした。

また、職員会議も小中高がそろって月1回あるとのことでした。

いろいろな形が提案されていますが、校舎が同一場所にあるということも効果的な面があると思いますが、教育内容の見直しという点で、先日佐世保市では、5年・4年制の取り組みも検討されているとのこと、これは、中一ギャップの解消と、語学教育の充実の点があるかと思えます。

また、校舎の建て替えを考えたときに、複数校の建て替えあるいは長寿命化の工事で、かなりの費用がかかるかと思えますが、これが、1校分で済むなど、そういう地域の人口減少に伴う地域対策にもなってくると文科省官僚の話もありました。

近藤委員 以前赴任した小中学校では、小学校100名、中学校60名の学校でしたが、従来の制度では、小学校と中学校の教師が別ですので、小学校の教師が足りなくても、中学校の教師が出ることは無いような状況でした。

小規模校については、小中一貫校は、非常に将来的な可能性が広がっていくかと思えます。

さらに、生徒数の問題も関係してくると思えます。

一つの施設で足りるような地区では、小中一貫校の導入がしやすいのではないかと思います。

児童生徒が減少していく中で、施設を新たに建て直さなくても、改築程度で、小中一貫校が実現できる可能性もあります。やはり施設の建て直しとなると財政の問題が一番大きな問題となってくるわけであります。

また、施設分離型という考え方もありますが、やはり施設一体型を進めていった方が良いのではないかと思います。

施設一体型も小学生と中学生の体格を考えるとトイレも違うし、いろいろな問題もありますが、この小中一貫教育は大きな流れで、今から十分に検討、研究を進めていかなければならないと思えます。

塩田委員 今までお話を伺った中で、モデル校のような、新しい一体型の施設で小中学生と一緒に学ぶという形もあれば、別々の施設という分離型もあるとおっしゃいましたが、分離型ではこういった形で進んでいくのでしょうか。

永田教育長 先ほども小中学校間の教師の相互乗り入れ配置の面等の点では、ソフト面の効果があるかと思えますが、やはり一番効果があるという報告があっているのは、施設一体型となります。

しかし、施設一体型イコール施設の新築でなければ出来ないということでもないと思えます。

塩田委員 施設分離型であっても、体育祭や文化祭などで小中学校の交流をやっているところもあるかと思えますので、こういった交流をもっと密にしていこうということになりますか。

永田教育長 そういうことになるかと思えます。

また重要な問題もあります。

それは、小学校は、45分授業、中学校は50分授業です。

例えば4年3年2年制の取り組みでは、45分授業のグループには、5分のロスタイムを設け、その時間を予習や復習に当て、休み時間を50分授業のグループと合わせているという例もありました。

松本市長 この制度を本市に持ち込むことが効果があると考えられるのであれば、前向きに検討して、こういった形が良いのか、充分検討を深めていってほしいと思えます。

松本市長 次に、テーマ第4「子育て・家庭教育支援について」を協議いたします。

資料は、9～15ページでございます。

まずは、制度内容等について、説明をお願いします。

学校教育課長 (別紙資料により、学校教育課での子育て、家庭教育支援制度について説明)

教育総務課長 (奨学資金貸付制度について説明)

- 生涯学習課長 (別紙資料により、生涯学習課での子育て、家庭教育支援制度について説明)
- 永田教育長 補足いたしますと、教育委員会イコール学校教育と思われる方も多いたと思いますが、生涯学習課、スポーツ振興課も含め、子育て、家庭教育の支援事業を多岐にわたり取り組んでいることをご紹介したいと思います。
- 松本市長 この件について、委員の皆様よりご意見等ございませんか。
- 坂上委員長 子育て、家庭教育支援についてですが、やはり就学前のしつけ、家庭教育が大切だと思います。
今度、長崎県教育委員会研究大会が予定されており、本市もまさにこの子育て、家庭教育支援に関するテーマで本市が分科会で発表する機会を与えられ、南島原市の様々な取り組みを知る良い機会となりました。
非常にすばらしい取り組みをされております。
- 松本市長 他にご意見がないようですので、次に、テーマ第5「来年度の総合教育会議について」を協議いたします。
来年度の総合教育会議において、協議すべきテーマがあれば、ご意見をお伺いしたいと思います。
- 教育次長 来年度のテーマについては、具体的には詰めておりませんが、総合戦略の関係で、来年度から取り組んでいくわけであります。
その中で、新たに取り組むもの、また今取り組んでいるものを拡充、充実していくものについては、それをどのように予算に反映されるかについては、教育委員会の事業計画という中でご説明はいたしますが、その取り組み方などについて、意見交換をしていただく。また年度当初ですので、フリーハンドで、意見を交換していただくのも良いのではないかと考えております。
- 松本市長 また、委員の皆様から、このようなテーマで意見交換をとというものがありましたら、提示していただきながら、今後も進めていきたいと思っております。
- 松本市長 次に、「その他」ですが、「いじめ問題について」を協議したいと思います。
本市の現状について、学校教育課より説明をお願いします。
- 学校教育課長 まず、県の調査について説明いたします。
平成26年度の件数については、小学校が1,204件の認知があり、解消が1,178件ということで、解消率としては、97.8%ということでした。
本市でいじめとして計上したのが、小学校で1件ですが、解消しております。
中学校については、認知件数が552件、解消件数が、534件、96.7%の解消率となっております。
本市の場合は、中学校で9件となっております。
当初は6件でありましたが、再調査で3件増えております。
なぜ、その3件を当初あげなかったといたしますと、仲の良い生徒同士の喧嘩であり、解消もしていたので、いじめとは捉えておりませんでした。再調査があり、追加したものであります。

- 松本市長 他にご意見がないようですので、次に、「校長の発言による教育委員会の再調査について」を、協議したいと思います。
まず、教育長より、説明をお願いします。
- 永田教育長 この件につきましては、調査はほとんど終わっており、調査の結果の精査、まとめの段階に入っております。
11月末をもって議会へ説明したいと思っております。
その前に教育委員会を開催し、議会へ説明の後、さらに県教委へ内申をする予定です。
- 松本市長 この件について、委員の皆様よりご意見等ございませんか。
ないようですので、他に、皆様方から何かございませんでしょうか。
- 永田教育長 学校統廃合の状況についてご説明いたします。
深江地区の本校併合について、先般説明会を開催しました。
賛成者は、保護者対象の説明会でしたが、半数近くの方が地域の皆さんでした。60名近い人数のうち、賛成は、ひとりもいらっしゃいませんでした。
9月議会で答弁しておりましたとおり、今後は、反対を押し切ってまで統合を進めるということにはならないだろうと思っております。
前教育長が反対の多い中では進めない旨の発言もされておりますので、踏襲し、当分の間、分校の本校併合は実施しないということになるかと思っております。
今後危惧するのは、本校の児童数が分校の3分の1になる可能性もあります。
- 坂上委員長 先日の説明会で保護者の賛成は無かったのでしょうか。
- 教育次長 保護者の方も含め、賛成者はいらっしゃらなかったということです。
いろいろなご意見が出ましたが、賛成のご意見は、いただけませんでした。
発言されていない方へも、本校併合に反対の旨でよろしいか確認した折に、拍手で意思表示をいただきましたので、賛成の方はいらっしゃらなかったと捉えております。
- 坂上委員長 説明会を欠席した保護者の方のご意見はどのようなのでしょうか。
以前、アンケートも実施されたということですが。
- 学校教育課長 説明会の前に、学校長とPTAの役員の方10名程度のご意見を伺ったのですが、その中でも反対のご意見でした。
アンケートにつきましては、その前の段階で、独自にPTAで実施されており、回収率は、50%でその中で反対が半数程度とのことでした。
ただし、馬場分校地区、諏訪分校地区の保護者の方は、8割程度の方が反対のご意見だとのことでした。
- 岩永委員 将来的に、深江地区は、小中一貫校に関してはどうなっていくのでしょうか。
- 永田教育長 どこの地域を指定するかは、現在研究中であり、深江地区は規模が大きい地区でありますので、総合的に判断して、候補を検討していかなければならないと考えております。

松本市長

他に、皆様方から何かございませんでしょうか。

ご意見も出尽くしたようです。

本日は、ご多忙な中、貴重なお時間をいただき、大変参考になるご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

今後も本市教育行政の推進につきまして、ご尽力とご協力をお願いいたしまして、本日の第2回総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 17時30分